

令和5年度 第1回 中海・宍道湖・大山圏域市長会総合戦略推進委員会
各委員意見のまとめ

1. 人口及び中海・宍道湖・大山圏域市長会事業について

- 結婚をしていなくても、仕事があるから住むこともある。例えば転勤が多い方が結婚し他の地域に引っ越すと人口の流出につながる場合もある。婚活イベントを行って移住定住につながるか分析をする必要があるのではないか。
- インバウンドプロモーションについて、令和2年に上海便が就航したが直後に新型コロナウイルス感染症の影響で停止している。当時、鳥取県島根県が一緒になって定期便就航に向けて頑張っており、非常に良いスタートを切ったのにもかかわらず、コロナで運休になり、あわせて搭乗率も非常に高かった香港便も運休になり、非常に残念である。
- 中国、香港から観光客等に来ってもらうことは大切ではあるが、こちらに住んでいる人が観光で遊びに行くようなことも必要である。定期便を維持しようと思うと、来てもらうばかりではなく、日本からも観光で遊びに行く人を増やすことも必要なる。上海便ができたときに、航空会社が大都市だけでなく、様々な都市にも飛ばし、例えば米子から入って他の都市から帰るといったことを目指し、日本への観光客を増やしたいと言っていた。上海便、香港便がいつ復活するかは分からないが、旅行会社と密に連携することもインバウンド再開に向けては重要ではないか。
- R4年度の海外の情報発信の実績について、中国ではインスタグラム、フェイスブックは全く見ることができない。中国で情報発信を行うと思うと、WeChatを使用する必要がある、いろいろな情報統制があるので、それぞれの国に合わせた手段を駆使しないと伝わらない。
- 山陰まんなか未来創造塾は昨年、対面形式で研修を実施している。経済団体も市長会と分担し経費負担している。令和4年度、予算額は120万円、参加した人は一人2万円の参加費がかかっている。合計200万円の経費をかけて、行政、民間合計三十数名の研修を行われているが、費用に見合った効果が発揮されたのか検証していただきたい。特に、貴重な人材を派遣した民間の経営者の方が、どのように評価されているのか検証していただきたい。

- 人口については、出雲市は昨年まで増えていたが、減少に転じている。出雲市は村田製作所の関係でブラジル人が増えていた状況と考える。日本全国で人口が減少しており、人の取り合いをしていても仕方がない。関係人口を増やしていくことが今後課題であり、関係人口を増やしていくためには観光の力は大切である。観光振興に引き続き、力を入れてもらいたい。
- 島根大学と若者を共に育てるプロジェクトと同様の取組みを県立大学でもさせていただけないかと考えている。県立大学、特に松江キャンパスと出雲キャンパスは、この圏域内から進学してくる学生が非常に多い。しかし就職の際に、外に目がむく傾向がある。鳥取県に関しては、例えば境港市、米子市から進学し県立大学に通うと、島根県の就職情報には割と興味にある。私たちも島根県から委託を受けて、色々なツアー等をするが鳥取には行けない。なぜか県境の壁が非常に厚い。ではどこでお願いできそうかと考えると市長会が挙げられる。県立大学との連携をお願いしたい。
- 令和5年度の圏域学生地域活動支援事業について学内でチラシを拝見したが、学生だけでアイデアづくりをするのが難しいかもしれない。例えば、プラン作りから一緒にする伴走する、講座とセットで行うなどすれば学生にとって魅力的になる。
- 人材育成の共同については、市長会で育成しようとする人材のビジョンが分かりにくいのではないかと。例えば、「今まである縦割りの何かを乗り越えて、新しい物事を創出しようとする、気概があるとか、そういうことを推進していくリーダーシップのある人材を育てる」といったようなことである。目的が見えていると、「うちの会社からこの人を出そうとか」、「といった想いにつながるのではないかと。戦術でDX等はあるが、その戦略、もしくはその上のビジョンが、すこし外に見えづらい状況になっている。この人材育成塾から何が生まれたのか、今まで解決できなかったで、なにが解決できたか、ワークショップ等の中でも話し合いができたりすると可視化しやすいのではないかと。
- ビジネスマッチングの商談件数はでていますが、商談が何件成立しているのか定量的な結果がわかれば記載して方がよい。定性的な表現しかできないものは仕方ないが、定量的な数値の方が理解しやすいのではないかと。
- クルーズ船の令和4年度の実績が4回、令和5年度の計画が30回と回数が増えている、観光地へのバス、タクシーを手配する必要があるが、運転手が減ってしまい、コロナ以降、夜間ではタクシーが拾いづらい状況がある。実際に令和5年度では対応できるようになっているのか。手当があるのか、バスやタクシー以外の自転車等の交通手段も考えているのか。

○8の字ルートが大きく取り上げられている。一方でこの圏域は中海、宍道湖に面している自治体がほとんどであり、せつかつなので、中海・宍道湖の水辺空間を観光、交通に、もう少し活用する手段、例えば船による水上交通等はできないものか。

○インド交流について、当社はODAを活用して現地での廃棄物処理の実験を進めていたが、コロナで立切れになり再建の目途が立っていない。個人的な見解として、中小企業の海外進出はリスクが大きく、国や関係団体の支援なしでは考えられない。海外進出は行き詰っているのが現状。事業進出も含めた支援は行政では厳しいのではないかと思う。インターシップ等の人的交流に力を入れていることは方向性としては良いと思う。

○自然環境の保全・活用事業について、当社にも小学生に見学にきていただいた。小さいときから環境問題、ゴミの問題について特別な授業で良いので、一度でも参加すると将来の行動が変わってくると思う。我々も引き続き積極的に取組を進めていきたい。CSR活動の一環として、小学校に出向いてごみ問題の出前授業を行っている。小学生の食いつきが良く真剣に聞いてもらっており、将来なにかしらの役に立つと考えている。出前事業も含め、今後も環境問題について活動を続けていきたい。また鳥取県の廃棄物処理関係団体では、積極的に環境教育等啓発活動等を行っている、鳥根県で実施することも可能である、検討のほどよろしくお願ひしたい。

○人材確保、特に国際人材について、全国の人口増減率をみると、日本人だけではマイナス0.65%であり、外国人を入れると0.41%となる。つまり外国人で人口減少の緩和が下支えされている。これから圏域に外国人の人材を確保していくことは大きな課題であると考えている。外国人の人材の交流を盛んにして、圏域IT人材に限らず呼んでくるような取り組みをされてはどうか。

○圏域は米子空港と出雲空港がある。米子空港は10月からソウル便が再開され、香港便はチャーター便で就航する。出雲空港は国内線7路線あった。うち2路線が来年2月から休止となる。いずれにせよ、米子空港、出雲空港のこれらの路線は圏域で競合するものではない。圏域の中で利用促進が図れないかと考えている。空港の利用促進はインバウンド、アウトバウンド、観光、ビジネス等を念頭において取り組んでいければよいのではないか。空港については、圏域の財産である。これを維持・拡大できるような取組をお願ひしたい。

○去年、2回東京の友人を島根、鳥取を案内したが、一番ネックだったのが、同じ空港を使って、インアウトを行わないと割引が無いといったことだった。しかし、実際1泊2日で満喫しようと思った場合、どう考えて、どちらかの空港から入り、もう一方の空港で帰るルートにしないと時間が勿体ない。両方の空港も使った証でもあれば、何%キャッシュバックのような制度あればいいのではないかといった、話をしたことがある。観光でも、ビジネスでも同じことが言えると実感を持っている。